

vol.8

2008.8.10

# MONTHLY REPORT

マンスリーレポート



Mid-West Japan  
Cancer Professional Education Consortium

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム

vol.8

2008.8.10

# MONTHLY REPORT

マンスリーレポート



● コンソーシアム参加がん診療連携拠点病院  
● 参加大学・がんセンター

**愛媛大学**  
愛媛大学大学院医学系研究科  
学務室大学院チーム  
TEL(089)960-5868

**岡山大学**  
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科等  
学務課大学院係  
TEL(086)235-7986

**香川大学**  
香川大学医学部学務室  
(入試担当)  
TEL(087)891-2074

**川崎医科大学**  
川崎医科大学学務課  
教務係  
TEL(086)464-1012

**高知女子大学**  
高知女子大学学生課  
大学院担当  
TEL(088)873-2157

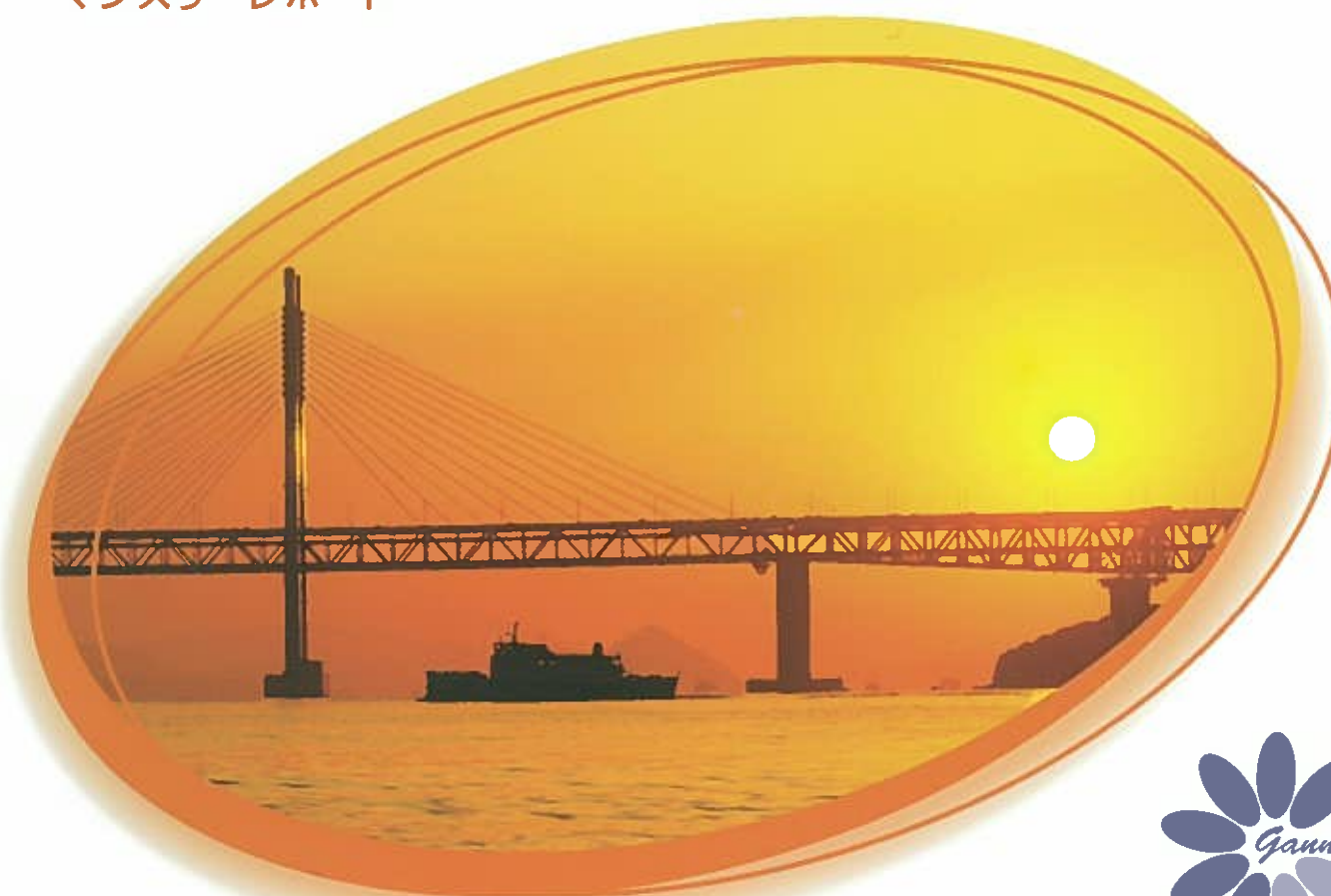
**高知大学**  
高知大学医学部学生・研究支援課  
大学院教育担当  
TEL(088)880-2263

**徳島大学**  
徳島大学医学・歯学・薬学部等  
事務部学務課大学院係  
TEL(088)633-9649

**山口大学**  
山口大学医学部学務課  
大学院教務係  
TEL(0836)22-2058

**四国がんセンター**  
TEL(089)999-1111

<http://www.chushiganpro.jp/>



Mid-West Japan  
Cancer Professional Education Consortium

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム





趣旨・組織

がんは、わが国の死亡率第1位の疾患ですが、がんを横断的・集学的に診療できる専門家が全国的に少なく、その養成が急務とされています。また、近年の高度化したがん医療の推進は、がん医療に習熟した医師、薬剤師、看護師、その他の医療技術者等(コメディカル)の各種専門家が参画し、チームとして機能することが何より重要です。そのため、がん医療の担い手となる高度な知識・技術を持つがん専門医師及びがん医療に携わるコメディカルなど、がんに特化した医療人の養成を行うため、大学病院等との有機的かつ円滑な連携のもとに行われる大学院のプログラムが「がんプロフェッショナル養成プラン」です。

ごあいさつ

当コンソーシアム事務局では、講演会、海外研修、学生募集などの連絡を目的としたマンスリーレポートを発行しています。

本プランは、中国・四国8つの大学が一つのコンソーシアムを作り、各大学院にメディカル、コメディカルを含む多職種のがん専門職養成のためのコースワークを整備し、これに地域の28のがん診療連携拠点病院が連携することにより、広い地域にムラなくがん専門職を送り出すプログラムです。がんに関わる多職種専門職が有機的に連携し、チームとしてがん診療ならびに研究にあたることのできるよう職種間の共通コアカリキュラムの履修を出発点として教育研修を行います。また、国内外のがんセンターと連携し指導的ながん専門医療人養成のファカルティ・ディベロップメントを連動させ、がん専門職養成の教育能力を強化します。こうして専門的臨床能力、チーム医療や臨床研究の能力をともに身につけたがん専門職が数多く輩出されることにより、地域におけるがん治療の均てん化、標準化が期待されるとともに、臨床研究の活性化が期待されます。

本誌をきっかけに、大学院入学や各種セミナーへの参加等をご検討いただければ幸いです。

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム事務局



がんプロへの思いを語る

愛媛大学



鹿田 久治 さん

本年4月よりがんプロ1期生として愛媛大学大学院に進学しました。1期生と言うことで、自分が進むべき道を自分で切り開かなければならない面もあり、非常に楽しみでもあり、プレッシャーを感じる時もあります。これまでは造血管悪性腫瘍を中心に一般内科医として診療に携わっていましたが、これを機に腫瘍内科医として幅広い分野の悪性腫瘍についての知識、技術を習得したいと考えております。また、最先端の知識や治療法を追い続けるだけではなく、広い視野を持ち、患者様にとって一番困っている事は何か、必要なものは何であるかを的確に判断し、適切な医療を提供できる医師になることを目標にしています。



高井 昭洋 さん

私は消化器外科を専門とする外科医です。したがって、手術が私の仕事の要であり、その技術を活かすことで医療福祉に貢献したいと考えています。日本人の死因は悪性新生物が第1位です。死亡率の上位は肺癌、胃癌、大腸癌、罹患者もほぼ同様に胃癌、大腸癌、肺癌です。集学的治療により生存率は向上しました。しかし、やはりがんは早期発見・早期治療が基本であり、手術が最重要であると考えます。胃癌と大腸癌の5年生存率はおよそ60%です。外科医として、さらなる手術技量の向上を目指したいと思います。一方、残念ながら救命し得ない患者さんに対し、どのように向かい合っていくかをこのがんプロコースで学びたいと思っています。



永井 功造 さん

卒業から5年間、小児科医として勤務し、平成20年度から内科系腫瘍専門医養成コースに入りました。将来は小児悪性腫瘍を専門として、臨床と研究に携わりたいという希望がありこのコースを選びました。今は愛媛大学附属病院内の血液内科にて、成人の血液腫瘍の臨床経験を積ませていただいています。これまで腫瘍の専門知識どころか、成人の診療経験のない状態からのスタートでしたが、指導医の先生方からよく教えていただき、充実した研修をおこなっています。これから腫瘍専門医になるために学ぶべきことが沢山ありますが、頑張っていきたいと思っています。よろしくお願いたします。





## Johns Hopkins Singaporeにおける研修報告

今回我々は、シンガポールにあるジョンズホプキンス・シンガポール・インターナショナルメディカルセンター(JHSIMC)にてFD研修を行ったのでここに報告します。今回のチームは、愛媛大学より香川由美子先生、岡山大学より堀田勝幸先生そして私、野間和広の3人で成る混合チームでした。

研修目的は、

1. JHSIMCにおける先端の癌診療の内容の把握
  2. JHSIMCにおける初期研修終了後の若手医師に対する癌専門教育システムの把握
- であり、今回、特に2.の「若手医師に対する教育システム」に我々は着目し、研修を行いました。

### [1]JHSIMCではどのような診療体制をとっているか

JHSIMCは癌治療専門の約20床の病院で、シンガポールの大きな総合病院の一つであるTan Tock Seng病院の最上階13階に位置しています。いわゆるHospital in Hospitalの形をとっています。基本的に病棟はPrivate inpatient (入院患者)です。外来も病院内の一角に在ります。外来の中にはベッドを設け外来化学療法を実施しています。外来では医師(Consultant)がそれぞれの患者を診ています。Tan Tock Seng病院は、約1000床程のPublic Hospitalで、JHSIMCの医師たちはそちらでも化学療法部を担当し、外来も行っています。一般病棟との関わりは、基本的には院内紹介やTumor boardに参加するアドバイザー的な役割ですが、その他に彼ら自身も5床のベッドをPublic Hospital内に持っています。



プライベート外来の入口

JHSIMCの医師たちがある程度Public healthに関しても外来や一般病棟で患者さんを担当する事で、Tan Tock Seng病院との良い連携を保っています。しかしながら基本はPrivate inpatientで、UAE等の中東アジアや東南アジアからの富裕層の患者を診ることが主な役割です。

### [2]JHSIMCの構成

- ・Chief Executive Officer (CEO) and Medical Director (Professor of Oncology, Johns Hopkins University)  
1人:Dr. Alex Chang
  - ・Consultant (Assistant professor)  
4人:Dr. Lopes, Dr. Bharwani, Dr. Eliane, Dr. Troy
  - ・Registrar (as Fellow in US)  
1人:Dr. Daniel Tan
  - ・Medical officer (as Resident in US)  
6人
- の計12人で構成されており、いわゆるスタッフであるConsultantは、一人を除いて皆USAでOncologyのトレーニングをうけて来た医師です(1名はUKにてトレーニング)。

### [3]Registrarはどのようにトレーニングを受けているか

#### 1)ガイドライン

シンガポールでは、基本的にMedical officerもRegistrarもMedical Councilに登録されており、そこでプログラムが調整されています。JHSIMCとしては、そのMedical Councilに承認を得る事で初めて施設としてRegistrarをむかえることができる仕組みになっています。従ってJHSIMCは独自の良質なプログラムを用意し、その認定を受けられるように努力しています。

シンガポールでは3年のRegistrarの後にOncology board試験(専門医試験)を受ける事が出来ます。その規定に標準を合わせつつ、3年間のプログラムを組むことになっています。プログラムは基本的にはESMO (European Society of Medical Oncology) に準じています。

### 2)日常診療

病院内には、大きく分けてPrivate inpatient (プライベート入院患者)、Public inpatient (一般病棟入院患者)がそれぞれのConsultantの名前で入院しています。また、他科の入院患者で院内紹介を受け、重複して診療している入院患者さんもいます。その3種のすべての患者さんを、中間管理職として診ているのがRegistrarです。多い時には30人以上になることもあります。各パートにはローテーションで割り当てられたMedical officer (Resident、以下MO)が常時患者さんを診ているので、そのMOの教育及びConsultantとの化学療法における方針の話し合いを持ちます。病棟回診をConsultantと行い、また外来も週3~4回の頻度でConsultantと共に行います。2年目からは外来も一人で週1回持つようになり、責任を持って直接患者さんを診るようになります。即ち、RegistrarたちはMedical officerの教育と、Oncologistとしてのスキルアップの2点をConsultantに教育を受けながら同時にトレーニングされているわけです。

### 3)研究

一般診療のトレーニングを目的とする研修医時代と違い、臨床的、専門的トレーニングを目的としているRegistrarにとって、特にOncology分野で研究を行うことは非常に重要で、彼らはRegistrarの期間中、臨床研究も併行して行っています。毎午後、一定の時間がリサーチの時間に割り当てられています。



病棟への入口

研究はカルテベースの臨床検討や前向き臨床試験のデザインや実施も行います。そう言った研究のアドバイザーもProfessorであるDr. Changの役割となっており、とても専門的なところまで追求してDiscussionをしています。

要約しますと、JHSIMCでは、MOの教育をRegistrarにまかせることにより、癌患者さんの化学療法をマネージするリーダーとしてのスキルアップを図っています。また同時に、RegistrarがOncologyの専門的な知識(判断力)を身につけ、さらに実行力を養うような仕組みになっています。目標として、

1. Medical officerにがん患者の心身の病状の把握を教育することにより自己教育もはかる
  2. Medical officerにがん患者の心身の病状の管理を教育することにより自己教育もはかる
  3. がん患者に対して最良の治療選択する事が出来るようになる
  4. 抗癌剤治療特有の副作用に対する適切な支持療法が出来るようになる
- を項目として教育されます。

### [4]実際のRegistrar :Dr. Daniel Tan

JHSIMCにとっても、そして我々のプロジェクトにとっても重要人物であるDr. Daniel Tanについて少しレポートしようと思います。彼は2000年卒のMD(UKにて)です。3年間のMedical officerおよびMRCP(研修医が必ず受け、合格しないとイケな



Tan Tock Seng病院内JHSIMCから見たシンガポールビル群



## Johns Hopkins Singaporeにおける研修報告

い実地試験:UKの試験に準ずる)を終了の後、軍隊へ入隊(シンガポールでは義務になっています)、その後NCC (National cancer centre)のRegistrar program of oncologyへ進み、そのプログラム内のローテーションとして、ここJHSIMCへ半年の研修に来ています。彼はこれから3年間の研修の末、Oncology board試験を受けることになっています。そこでようやく晴れてConsultant(いわゆるスタッフ)として活躍できるようになる予定です。彼は、上記の通りMedical officerとConsultantとの中間管理職的な役割をしつつOncologistとしての腫瘍学、治療学教育をProfessorや各Consultantから受けます。毎日Blue Letter(院内紹介:基本的に各Consultant名義で受ける)があると各病棟に赴き、Medical officerを教育しつつ治療方針について自分なりのアセスメントを考えます。一番の窓口は医師です。夕方になると、各Consultantと、病院全体の担当患者及びBlue Letter Patientsの一例一例について報告および治療方針を病棟で話し合います。基本的にはその際にConsultantとともに患者のところに同行し、スペシャリストとして関わります。そのようにしながらOncologistとしてのClinical Skillを磨いて行きます。その他、日中に時間を見つけてはResearchを進めています。ただ、そのResearch Programは系統だった物では無いようで、その事に関してはDaniel的には不安に思っているとのことでした。今現在のDanielとしては、OncologistとしてPhD教育をどう受けるかが一番頭を抱えている問題です。日本であればそのままPhDコースに進みますが、彼には2年半の徴兵期間がありました。年齢的にも、どのタイミングでPhDコースに入るのか、もしくは、PhDコースを取らずにそのまま臨床医としての歩みを進めるべきか。どちらをとるべきか、今、彼は一生懸命考えています。がん専門のプロフェッショナル養成の大きな課題である“OncologistとしてのClinical SkillそしてAcademic knowledgeとしてのPhDという教育の整合性をどのように保つか”が、やはりここシンガポールでも難しい問題であるようでした。現在彼は、UKに研究留学することも視野に入れているそうです。

彼に限らずシンガポールではUKで教育を受けた医師が多く、MDをUKで取得した後シンガポールへ帰国する場合や、あるConsultantのようにMedical officer、MRCPまでUKでトレーニングし、その後帰国してRegistrarやConsultantとして活躍する人も多くいます。USAの医学教育がある程度の影響力を持って浸透している日本からすると不思議な感じがしますが、もともと英国領であった風土を考えればなるほどと納得できます。それほど英国の教育が根付いた国であると再認識させられます。ただ、彼らもUSAの医学教育、医学トレーニングに無関心ではありません。英語が堪能な彼らにとっては、ポストとその道があれば行ってみたいと考えているようです。

### [5]今後の展望 Registrar training

シンガポールでは、Registrar Programは基本的にはGovernmentの直系であるMedical Councilによって統括されており、現在では3施設でしかOncology Registrar Programが認定されていません。現在JHSIMCではRegistrar 1名の受入が認定されています。Registrarの導入や増員は組織としても医療の質を上げ、さらに彼らの行うClinical Researchも結果として組織としての客観的な評価にも繋がり、JHSIMCとしても興味のあるところ。あと1人Consultantを増やすことが出来れば、Medical Councilからもう一人Registrarの枠が与えられるそうです。彼らにやる気が在れば、



河川沿いのシンガポールビル群とレストラン街(アジア中心)

JHSIMCには十分なClinical researchを行うだけのハード(患者数)が在り、また教育面でも十分にサポートする事が出来るとDr. Changも意欲的です。日本においても、初期研修を終った若手医師が臨床に加わりながら、質の良いカリキュラムとトレーニングを受けることが実現すれば、彼らのスキル向上にとっても患者さんへの治療にとっても非常に効率の良いシステムになるであろうと思いました。そのことは、我々の“がんプロ大学院教育”を考える上で非常に参考になる考え方であり、取り入れることのできるシステムもあるように感じました。

### [6]まとめ

JHSIMCの教育プログラムは、時間に区切られた非常に効率的なプログラムであると感じました。達成項目ばかりをリストアップし、ある一定の期間での達成評価をするだけのプログラムが多いのですが、このプログラムはRegistrarの日々の時間スケジュールを明確(あくまでも目安としての)にし、研究および臨床をうまく織り交ぜている教育システムでした。Oncologistとして必要とされる研究と十分な臨床経験の二本立ては非常に難しいことですが、より質の高いがん治療のプロフェッショナル育成にはとても重要な要素と考えられます。JHSIMCのシステムでは、若手医師が、研究をしながらもBlue Letter(院内紹介)を絡めた臨床との関わりを継続的に持ち、スキルを保つと同時に新たな知識の集積を積んで行きます。このようなJHSIMCのシステムに鑑みるに、我々が現在取り組んでいる“がんプロ大学院”としては、がんの専門的な博士号コースを大黒柱とする“研究→PhD育成プログラム”に臨床の経験を効率的に織り込む独自性を確立する事が出来れば、より効率良く“がんプロフェッショナル”を世に送り出す事ができるのではないかと感じました。現時点では、一つ一つそういった明確で細やかなプログラムを作成し、システムとして展開して行く事が大切であろうと思われました。

最後に、本研修に参加する機会を与えていただいた中国・四国広域がんプロフェッショナル養成コン

ソーシアムの皆様、プログラムの運営をしてくださった皆様、そしてJHSIMCの研修を支えてくださった現地の皆様に、心より感謝いたします。

### 参加メンバー

岡山大学/堀田勝幸(医師)、野間和広(医師)  
愛媛大学/香川由美子(看護師)

### 文責

岡山大学/野間和広



河川沿いにあるレストラン街(ポート・キー)



マーライオンとシンガポールビル群



# 高知女子大学

## 高知女子大学大学院看護学研究科



研究科長 森下 利子

高知女子大学は昭和27年に開設された県立大学で、看護学部は日本で最初に看護学教育を開始し、平成10年には看護学研究科(修士課程)、平成13年には健康生活科学研究科(博士後期課程)に看護学領域が開設され、時代の要請に応えながら看護専門職者の養成と看護学教育の発展に寄与する大学として、リードしてきました。

本研究科には、専門看護師コース(CNS)と研究コースがあり、研究科では、「健康生活の実現や健康文化の構築に向けて、高度で質の高い看護実践能力、保健医療を革新する能力を開発し、看護学の発展に貢献する高度実践看護職者を養成する」という理念に基づいて、社会の様々な場で貢献できる人材の養成を行っています。

本CNSコースでは、日本看護系大学協議会の教育課程認定の審査を受け、がん看護を含む5つの専攻領域で養成を行っています。がん医療が進展する中で、がん看護CNSが果たす役割は多大ですが、現在、日本全体で活躍するがん看護CNSは104名で、十

分なマンパワーとはいえません。本研究科では、97名の修了生中10名のがん看護CNSが誕生し、がん診療連携拠点病院や大学病院などで、患者・家族への直接ケアの看護実践はもとより、教育、調整、倫理、コンサルテーションなど、がん看護CNSとしての機能・役割を果たしながら、全国で活躍をしています。10年目を迎えた昨年は、がん看護領域を含むすべての教育課程で認定が更新されました。これは、本学が築いてきた看護学教育の歴史を基盤に、教育内容の充実やきめ細かな指導体制、修了生の真摯で着実な活躍による実績などが教育成果として評価されたものと自負しています。それと同時に、本研究科の教育研究活動にご協力いただいている病院関係者や、国内外の看護界でリーダーとして活躍する先輩や教員のご支援による賜でもあり、次の10年への取り組みに向けて気持ちを新たにしています。本コンソーシアムの一員として、今後一層努力していきたいと考えています。



8 August	9 September	10 October	11 November	12 December
1 金	1 月	1 水	1 土	1 月
2 土 医学物理士コースWG会議(高知)	2 火	2 木	2 日	2 火 第2回緩和ワークショップ(岡山)③
3 日	3 水	3 金	3 月	3 水
4 月	4 木	4 土 医学物理士FDセミナー(岡山)	4 火	4 木
5 火 第1回緩和ワークショップ(岡山)③	5 金	5 日	5 水	5 金
6 水	6 土	6 月	6 木	6 土
7 木	7 日	7 火	7 金	7 日
8 金	8 月	8 水	8 土	8 月
9 土	9 火 緩和インテグレーションコース講演会(岡山)	9 木	9 日	9 火
10 日	10 水	10 金	10 月	10 水
11 月	11 木	11 土	11 火 第2回緩和ワークショップ(岡山)②	11 木
12 火	12 金	12 日	12 水	12 金
13 水	13 土	13 月	13 木	13 土
14 木	14 日	14 火	14 金	14 日
15 金	15 月	15 水	15 土	15 月
16 土	16 火	16 木	16 日	16 火
17 日	17 水	17 金	17 月	17 水
18 月	18 木	18 土	18 火	18 木
19 火	19 金	19 日	19 水	19 金
20 水	20 土 がん看護WG研修会(高知)腫瘍センター講演会(愛媛)	20 月 FDシンガポール～10月31日	20 木	20 土
21 木	21 日	21 火 第2回緩和ワークショップ(岡山)①	21 金	21 日
22 金	22 月 FDシンガポール～10月3日	22 水	22 土	22 月
23 土 「がん緩和と医療」集中講義(徳島)	23 火	23 木	23 日	23 火
24 日 「がん緩和と医療」集中講義(徳島)	24 水	24 金	24 月	24 水
25 月	25 木	25 土 徳島消化器がん化学療法セミナー	25 火	25 木
26 火	26 金	26 日	26 水	26 金
27 水	27 土 第1回Oncology Seminar合同講演会(川崎)	27 月	27 木	27 土
28 木	28 日	28 火	28 金	28 日
29 金 第3回緩和ケアフォーラム in 岡山(川崎)	29 月	29 水	29 土 がん看護WG研修会(岡山)	29 月
30 土	30 火	30 木	30 日	30 火
31 日		31 金		31 水



### 第6回 愛媛大学腫瘍センター講演会

2008年 **9月20日** 土曜日  
**13:00~16:30**  
 12:30 受付 13:00 開会  
 愛媛県医師会館  
 高知市池2751-1

**がんになっても安心して暮らせる街づくりを目指して…**

**13:10~14:30**  
 患者家族に対するコミュニケーション  
 愛媛大学腫瘍センター 腫瘍内科 小池 隆子 先生

**14:30~16:30**  
**パネルディスカッション**  
 がんになっても安心して暮らせる街づくりを目指して

**13:00~16:30**  
 がん看護専門看護師コースWG 研修会  
 高知女子大学看護学部 共用棟2階大講義室

無料 300名



### 中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム 緩和インテンシブコース 講演会

日 時：平成20年9月9日(火) 18:00~20:30  
 場 所：岡山大学医学部臨床講義棟 臨床第二講義室  
 岡山県岡田町二丁目5番1号  
 参加費：無料(事前登録あり、当日登録あり)  
 ※参加証をお渡ししますので、なるべく事前登録をお願いします。

緩和医療先進国カナダで最先端の医療を実践しているふたりの専門家のお話を伺います。日本の緩和ケアマネジメントから教育、さらにはいかに在宅緩和医療を実現したかについてご講演いただきます。

18:00~18:10 開会の挨拶  
 コンソーシアム協議会議長 田中紀家

18:10~18:50 「Canadian Medical Palliative Medicine Education: From Then Until Now」  
 講演者 Dr. Doreen Onyszchuk  
 Residency Program Director & Associate Professor  
 University of Alberta

19:00~19:40 「エドモントンにおける腫瘍緩和と緩和医療」  
 講演者 Yoko Tarumi, M.D.  
 Director  
 Palliative Care Program Royal Alexandra Hospital

19:50~20:30 総合討論  
 司会 コンソーシアム協議会議長 田中紀家

お問い合わせ先：お詫・お礼・お申し込み  
 中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム事務局  
 岡山 松岡 純子  
 Tel: 086-235-7023 Fax: 086-235-7043  
 Email: info@chushi-ganpro.jp

### 中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム 第3回がん看護専門看護師コースWG研修会

**がん化学療法における高度な看護実践をめざして**

がん医療の充実・均てん化は国民の切なる願いであり、この要請に応えるためには質の高いがん看護実践を行うことができる専門職の育成が重要な課題となっています。医療現場では、安全で効果的に化学療法を行い、患者さんやご家族が「その人らしい生活」を送ることを支援できる看護職の存在は大きいといわれています。

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアムでは、病状や外注で化学療法を行っているのがん看護実践に携わる方を対象に研修会を開催致します。治療の基本や治療をしている人の状況を理解し、化学療法に伴う副作用・合併症に対する適切な対応や治療に伴う様々な問題への対応や支援の実践について具体的に学び、これからの看護実践に活用していただければと思います。是非、ご参加下さい。

日 時：2008年9月20日(土) 13:00~16:40  
 場 所：高知女子大学看護学部 共用棟2階大講義室  
 高知市池2751-1 TEL 088-847 8700  
 参加費：無料

**プログラム**

13:00~14:30  
 がん化学療法の基礎および治療による副作用と対応  
 講師 辻 晃仁氏(高知医療センター 腫瘍内科医長)

14:40~16:40  
 がん化学療法を行っている人への高度な看護実践  
 講師 角野 美佳氏(三田市民病院 がん看護専門看護師)

お問い合わせ先：申込先 岡山支所  
 FAX 088-847-8700 cncs\_wg@yahoo.co.jp  
 ※当日参加も受け付けております

### 中国・四国広域がんプロ養成プログラム インテンシブ生涯教育コース 川崎医科大学附属病院がんセンター 第1回 Oncology Seminar

合同講演会  
 日 時：平成20年9月27日(土) 13:00~16:00  
 場 所：川崎医科大学附属病院 別館6階大会議室(岡山県倉敷市松島577)  
 \* 川崎医科大学附属病院2階玄関からお入りいただき、つきあたりのエレベーターで6階までお上がりください。

駐車場：外来駐車場をご利用ください。(無料券をお渡しします。)

司会：川崎医科大学 外科学(胸部心臓血管) 教授 中田 昌男

セミナー1 がんの特性・疫学  
 川崎医科大学 内科学(呼吸器) 教授 岡 三喜男

セミナー2 がんの診断学  
 川崎医科大学 内科学(食道・胃腸) 助教 村尾 高久

セミナー3 がんの外科治療  
 川崎医科大学 外科学(消化器) 教授 平井 敏弘

セミナー4 がんの放射線治療  
 川崎医科大学 放射線医学(治療) 准教授 平塚 純一

セミナー5 がんの薬物療法  
 川崎医科大学 臨床腫瘍学 准教授 山口 佳之  
 ※各セミナーは、30分を予定しています

※ 事前準備のため、9月20日(土)までに下記までお申し込みをお願いします。

お問い合わせ先：申込先  
 川崎医科大学 学務課庶務係  
 Tel: 086-462-1111  
 (内線: 31104.6)  
 Fax: 086-464-1019  
 e-mail: gakumu@med.kawasaki-m.ac.jp

大学改革推進等補助金  
 「がんプロ養成プログラム」補助事業  
 プログラム名：中国・四国広域がんプロ養成プログラム  
 参加大学：岡山大学(補助事業大学)  
 川崎医科大学、愛媛大学、香川大学、高知大学、高岡女子大学、徳島大学、山口大学(共同事業大学)

緩和インテンシブコース講演会

カナダにおける緩和医療  
 平成20年9月9日(火) 18:00~20:30  
 岡山大学医学部臨床講義棟 臨床第二講義室

第6回 愛媛大学腫瘍センター講演会

がんになっても安心して暮らせる街づくりを目指して…  
 平成20年9月20日(土) 13:00~16:30  
 愛媛県医師会館

第3回がん看護専門看護師コースWG研修会

がん化学療法における高度な看護実践をめざして  
 平成20年9月20日(土) 13:00~16:40  
 高知女子大学看護学部 共用棟2階大講義室

インテンシブ生涯教育コース

第1回 Oncology Seminar  
 平成20年9月27日(土) 13:00~16:00  
 川崎医科大学附属病院 別館6階大会議室

お詫びと訂正  
 先月号におきまして、平成21年度学生募集スケジュールの愛媛大学の試験日・合格発表日を誤って掲載致しました。愛媛大学関係者様及び皆様にご迷惑をおかけ致しましたことお詫び申し上げます。

訂正箇所/マンスリーレポートVol.7 P7-8 平成21年度学生募集スケジュール  
 愛媛大学 試験日21.1.22(木)、合格発表21.2.20(金) → 試験日未定、合格発表未定

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム Vol.8

平成20年8月10日 発行

編集兼発行者  
 中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム事務局  
 TEL 086-235-7023

印刷所  
 有限会社 ファーストプラン